

議員全員協議会会議録

令和3年9月8日

宮古市議会

令和3年9月宮古市議会 議員全員協議会会議録目次

(9月8日)

議事日程	1
出席議員	2
欠席議員	2
議会事務局出席者	2
開 会	3
説明事項(1)	3
閉 会	16

宮古市議会議員全員協議会会議録

日 時 令和3年9月8日（水曜日） 午後2時40分
場 所 市議会 議場

事 件

〔説明事項〕

(1) 株式会社キャトル宮古の営業状況について

出席議員（21名）

1番	白	石	雅	一	君	2番	木	村	誠	君	
3番	西	村	昭	二	君	4番	畠	山	茂	君	
5番	小	島	直	也	君	6番	鳥	居	晋	君	
8番	佐々	木	清	明	君	9番	橋	本	久	夫	君
10番	伊	藤	清	君	11番	佐々	木	重	勝	君	
12番	高	橋	秀	正	君	13番	坂	本	悦	夫	君
14番	竹	花	邦	彦	君	15番	長	門	孝	則	君
16番	落	合	久	三	君	17番	松	本	尚	美	君
18番	加	藤	俊	郎	君	19番	藤	原	光	昭	君
20番	田	中	尚	君	21番	工	藤	小	百	合	君
22番	古	舘	章	秀	君						

欠席議員（0名）

なし

説明のための出席者

〔説明事項〕（1）

産業振興部長 伊藤重行君

産業支援センター所長 岩間健君

商業労政係長 野頭正樹君

議会事務局出席者

事務局長 下島野 悟

次 長 前川克寿

主 任 佐々木 健太

開 会

午後2時40分 開会

○議長（古舘章秀君） ただいまから議員全員協議会を開会いたします。ただいままでの出席は21名でございます。会議は成立しております。本日の案件は説明事項1件となります。議題となります株式会社キャトル宮古の営業状況については、本日、説明を受ける事項が市政に関する重要事項に該当すると判断したことから、所管の委員長とも協議し、このたび全協の場で説明を受けることといたしました。

○

説明事項（1） 株式会社キャトル宮古の営業状況について

○議長（古舘章秀君） それでは説明事項の1、株式会社キャトル宮古の営業状況について説明をお願いします。伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） それでは株式会社キャトル宮古の営業の現況につきまして、現在、我々が入手している内容につきまして情報提供させていただきます。まず初めに株式会社キャトル宮古の概要でございますが、商号は同様に株式会社キャトル宮古、創業は平成15年1月30日、店舗のオープンが同年の12月12日です。代表取締役社長は現在、茂内博彦さん。資本金現在2,780万円。商業床として1階から4階、現在直営テナント店28店舗、これは3年8月末現在でございますので9月5日に宮ビルスーパーさんが閉店したことにより27店ということになります。旧宮古サティの再生事業として、地元商業者が発起人となり、国、県の補助金や市の側面的支援により、商業ビルと一部公共施設が入居して営業している状況でございます。市の関与につきましては、宮古市は会社への出資、市による建物や土地の取得などの資本資産形成には一切関与はしておりません。一方その側面支援と言われるところなんですけれども、会社の設立説明会などの開催であったり、設立後の運営費の補助等を行い、事業の推進を側面から支えたということでございます。また、現在キャトル内への公共施設等の賃借状況でございますが、5階にジョブカフェみやこ、すくすくランド、そしてコミュニティFMがございます。3ヶ所につきましては、賃借料、共益費を含まして、年間で3ヶ所で894万1,488円の支出というふうになってございます。続きまして、資料の2番目でございます。新型コロナウイルス感染拡大以降の経過でございます。皆さんも既にご存じのとおり、8月上旬にキャトル宮古施設内でクラスターが発生。2日間の全館休業など感染拡大を食い止めるために取り組んでまいりましたが、お盆商戦の最中であり、また県の12日からの緊急事態宣言の発令のもと、長期に当たって客足が遠のき、売上げ減少を招いている中で、主力テナントの宮ビルスーパーさんが閉店したというような経過でございます。時系列にいて、それで8月の27日の金曜日ですけれども、株式会社キャトル宮古さんのほうに宮ビルスーパーの閉店の状況を我々職員が行って事情を聞いております。9月3日になりますと、株式会社キャトル宮古のほうから市のほうに対しまして状況報告と今後の取組について情報交換をさせていただきました。先日9月6日、宮ビルスーパーが閉店。そして翌日、本日の資料の別紙でもつけてありますけれども、東京商工リサーチ盛岡支店からの倒産情報が入ったところでございます。それで、今後の主な取組の部分になります。まず初めに、株式会社キャトル宮古、これは9月3日の情報交換の際に、キャトルのほうから言われたこととございますが、まずは食品スーパーの誘致活動に全力に取り組んでまいりたいと。そのほかの空き床への入居も働きかけてまいりたいという内容でございます。また、市といたしましては、まずは解雇された従業員を対象に公共職業安定所職業訓練協会、市が協力をいたしまして諸手続や職業紹介、資格取得などの再就職を支援してまいりたいというふうに考えております。また、キャトル宮古に現在入っているテナントへの支援といたしまして、宮古商工会議所と共同で現在の

県の地域企業経営支援金、また市の家賃支援給付金の周知、そして支援のサポートを行ってまいりたいということで、今週の金曜日に行く予定でございます。いずれ、現在市として何をすべきなのか、何ができるのかというのを検討をしている状況でございます。以上が、現在我々が持っている情報の全てでございます。終わります。

○議長（古舘章秀君） ありがとうございます。ただいま説明をいただきました全てということでございまして、この件は説明事項でありますことから、この件につきましては担当常任委員会におきまして調査検討等をお願いしていきたいと思っております。これでこの件については終わりたいと思っております。常任委員会のほうをお願いしてまいりたいとこのように思います。予定した説明は全て…藤原議員。

○19番（藤原光昭君） 議長は当初所管の委員会のほうの所管なんだけど、このような状況で全体にかかる。そのために協議して、議員全員協議会に説明することになったという経緯を説明当初にしたんですが、それでそういうに至った経緯というのは、やはりこれだけ産業建設だけに関わるものじゃないという、やっぱりこれだけ重要なことだと。だから全員で、議員全員協議会でという思いでなったんで、議員全員協議会でもうまた所管の委員会であってというのはちょっとおかしいんでねえかと思うよ。ここで全体にかける意味がないんでねえかという気がするんですが、私はね。説明だけのために議員全員協議会を開いたというのでは、ちょっと若干私はそこら辺が納得いかないんですが、委員長との協議の中でその具体的な部分まで話して全協に委ねだということになってるのかどうかわかりませんが、そこら辺私自身はちょっとこれは説明でこれは終わりというのはちょっといかがなものかなというふうに思ってます。

○議長（古舘章秀君） 実はキャトルの件については、内容皆さん状況把握が全然出来てないと思ひまして、その状況を皆さんで共有してからその対応等については議会としてどういう取組をしたらいいのかっていうのをやっていく必要があると、このように思います。どうするかこうするかっていう部分は、これから担当常任委員会のほうで協議検討していただいて、必要であればまた拡大していく必要があるのかなという思いがしておりますので、現在のところ、このキャトルの状況というのは私たち誰もわからないものですから、その状況把握のためには皆さんで聞いたほうがいいということで、常任委員長とも話した結果、それがいいということだったので本日その説明を求めたということ。今後の対応については、他の担当常任委員会のほうで調査研究して、今後の扱いについて、その後進めていっていくことが常任委員会としての役割ではないかなという思いがありましたのでこういうふうになりました。田中尚君。

○20番（田中尚君） 全員協議会っていう場の在り方について、私はちょっと冒頭の議長の判断については、ある意味そういうこともあり得るかもしれませんが、いやじゃあ何のための協議会なんだと。議長の判断から言わせると、キャトルの情報に関しては我々含めて当局も含めて十分な情報を知り得ていないということをお前提に、まずは冒頭の説明をいただいたと。従ってそこから先は所管の常任委員会でどういうふうな対応策が支援策も含めて必要なのかという判断のようでもありますけども、せっかく協議会開いてるわけですから、なおかつ市のほうから一定のキャトル側の要望も示されているわけでもありますから、そこは、全体の皆さん方がそれでいいというのであれば産業建設常任委員会さんのほうで議論するということになるかもしれませんが、私はあえて一般質問で指摘をしました。何でこの時期にフィットが、あえて固有名詞言いますけども、あいう密なるセールスの場を設けて、そこからこれだけのものがあって、キャトルだけに限らないですよ、市内の商店街の引込みは。その責任は一体どうなるんだと。いうのを私は一般質問で指摘をした経緯があります。説明の際に私はその問題について、やっぱり市の見解なり、対応策を伺いたいと思っておりましてだったので、

今日はその場面だなと思っていたところですね、私のそういう問題意識、予告それは受入れない。それも含めて産業建設常任委員会さんの所管ですので、しっかりと議論していただきたいという議長の判断であれば、そこは私は了としますけれども、私の問題意識は明確です。何でもこういうことになったの。誰が責任取らなきゃいけないの。その辺の分析はどうなんですかってことですね。私は所属でもないの、そのためにこの常任委員会の所管を超えて、横断的に全域的な課題でもあるので協議しましょうと、素直に思ってたわけでありましてけれども、冒頭から議長のほうから、もう説明しました、終わりますよ、ていうのはやっぱり藤原さん、産業建設常任委員会の副委員長でもありますので、ちょっとそこは違和感があるなというふうな指摘でございます。なおかつ私は一般質問でこういう議論する予定です、ていう予告もしてましたたのでね。ちょっとその辺については議長の、言わば議会運営のリーダーシップについて、ご説明いただいて納得できれば私は了としたいと思います。

○議長（古舘章秀君） このたびのキャトルの件につきましては、先ほども担当部長がお話したように現在知り得た情報はこれしかないということでございましたので、今後これからのまた進め方があるとこのように判断いたしましたので、やはり今後については議会としてどういうふうに取り組んだらいいかっていうのはやはり担当常任委員会でやったほうがいいんでないかという今判断をしたところでございますので、ご理解をいただければなど、このように思います。竹花議員。

○15番（竹花邦彦君） 私は少なくとも、今日の資料、経過も含めてですよ。今後の取り組みで議長がおっしゃってるのは、今後の主な取組等について所管である産業建設常任委員会で調査研究すると。少なくとも私はこの今日の説明資料に基づいて、ちょっとお聞きをしたい点もあるわけです。経過等の中でね。これについても今日の全協でやりとりをするなどということであれば、ちょっと私は担当部のほうにここはどういう状況なんですかっていうね、確認をしたい点もあるんですけれども、それも一切質疑はなしということでしょうか。

○議長（古舘章秀君） この資料の営業状況等の範囲内であればやはり質問を受けることが必要かなという今気がしましたので、全てという部分でありますので、資料についての質問であれば可したいと思います。竹花邦彦君。

○15番（竹花邦彦君） それでは9月3日にキャトルのほうから市に状況報告等今後の取り組みについて情報交換を行った、こういう説明であります。新聞報道によれば、多分これはまた意味合いが違うかもしれませんが、キャトルのほうから市への要請を行ったという記事になっております。ですから私は具体的にキャトルのほうから市に対して何らかの要望、要請みたいなものがあつたのではないかっていうふうに私はこの間受け止めてまいりました。さっきの部長の説明ですとキャトルのほうからは、1階の宮ビル側に代わるそこについては、新たな食品スーパーを誘致をしたい。どんどん空いてきているテナントについてはここは入居の働きかけ等をしたい。つまりこういう程度のお話だったのか。それとも市に対してキャトル側から具体的な市への要望、こういったものがあつたのかなかつたのか。あつたとすればどういう要望、それに答えるか答えないかは別ですよ。それについては今後当然できることと出来ないことがあるわけですから。少なくとも私はキャトル側から具体的に市に対して、市でこういうのをやっていただけませんかというような要請なり要望があつたのかどうか。あつたとすればどういうものがあつたのかということをね、ちょっとお聞きをしたい。つまりここでは、情報交換という表現になってますので、今日のペーパーの以上のものはなかつたということなのかどうか。その点も含めて、支障がない範囲で、もしあつたとすればお聞かせをいただきたい。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） この9月3日の情報交換の際には、先ほど私が述べたキャトル宮古の今後の進め方についてもございましたし、あと経営内容に触れるような内容の部分もございましたけども、具体的にどうこうということではございませんので、その経営内容に触れる部分を本日差し控えさせていただきますが、いずれ我々が交換したときに宮古市とすれば、駅を中心としたまちづくりを進めていると。中心市街地の拠点施設であるキャトルは重要な施設と認識しているということで、どういうことができるか検討させていただきたいということで終わっております。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○17番（松本尚美君） 今竹花議員の関連なんですけれども、私の聞いている範囲でも3日の日には、キャトルから文書でもって、ペーパーでもって要請をするというイメージで理解をしてたんですね。今部長の説明ですと、いやそうではないと。単なる意見交換で、そしてこういう知り得る部分は、経営内容については控えるけれども、公表できる部分はここ2点ですよと、いうことだと思うんですね。どうなのかなあ、私はもっとキャトルさんが本当に余裕があつて、もうあと5年も10年も経営に何ら問題がないという前提では今回キャトルさんは宮古市長に面会を求めて対応したとはとても思えないんですね。明日、あさってどうなるか。大変厳しい環境にあるという前提でキャトルの社長さんだけかどうかわかりませんが、市長訪問して、そして部長さんも関係者も同席されたというふうに思うんですね。だから、やっぱりポイントとすればやっぱりそこが今日、議員全員協議会での説明のポイントとすればやはり1番ポイントだと思うんです。前段からの知り得ているこの内容、別に時系列に書いてあるだけであつて、肝心な部分が説明されてないというふうに私はどうしても思わざるを得ないんですね。だから、この内容であれば議長が最初判断して別に議員全員協議会でなくて…あつ、判断しなかった。情報共有するような内容でも決して、これはレターケースに入れてもらえれば済む話じゃないかなというふうに思うんです。だからもっと今現状要請を受けた内容ですね、経営内容については、確かにオープンに出来づらいところあるかもしれませんが、少なくとも意見交換と称する中で、情報交換と称する中で、キャトル側から示されたのは私はこれだけではないというふうに認識してるんですが、本当にほかになんないんですか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 全くここに示したとおりでございます。確かに我々も情報が足りないというふうな認識がございますので、今後も情報収集には努めてまいりたいというふうには考えております。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○17番（松本尚美君） ここからは以上のことはやりとり出来ないのかもしれませんが、何とも言えないか。何とも言えないかもしれませんが、いずれキャトルさんはいつの時点だか、春先5、6月の頃だったかですかね。大変これは厳しい、今回はキーテナントの宮ビルさんが撤退するという事なんですけども、やはり長期的な不振という部分の前提でもって、再開発構想と云々を市の担当者も聞いていると思うんです。商工会議所さんも含めて、会議を持つというような流れもあったと思うんですけれども、そういった部分も全然触れてないんですね。だから恐らく情報交換の中に私は推測かもしれないけれども、新キャトルという言葉を使ったどうかわかりませんが、新たにこの展開をしていくという部分も私はあったんじゃないかなという推定ですけどもね。それもないんですか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 全くございません。

○議長（古舘章秀君） 田中尚君。

○20番（田中尚君） 当局のほうから資料としてちょうだいいたしましたこの倒産情報というのがございますけれども、この言わば背景というか直接的な倒産の原因というものも述べられております。簡単に言いますとコロナで倒れたという報告でありますよね。そう書いてますよ。1番最後、新型コロナウイルス関連倒産は岩手県内では15件目となる見通し。つまりこれも含めて、コロナ関連倒産だという情報までオープンにしているわけでありますから、ですから私は緊急事態宣言の中で、ああいうふうな形で密を避けよう。当然、我々毎日庁舎に入る際には検温して手指消毒もしてマスクもしてということをした結果ですね、こういう問題が発生したわけでありますから、そこを我々はどう考えたらいいんですかってのが私の問題意識であります。つまり、国がああいうふうな状態で全国民に呼びかけている。それを堂々と無視して、その結果こういうふうなことになっちゃったとなれば、私はちょっとそこは違った意味でしっかり議論してほしいというのが冒頭の発言でした。もう一つはここは我々宮古市が駅を中心としたまちづくりをしようという中で、いろいろありましたよ。途中の経過はね。せっかくそういう中で前後して、キャトルの南口に連絡通路もつくったわけですよ。全体としてはやっぱり中心市街地の空洞化を防ぐ。中心市街地の活性化を言わば呼び戻すための行政としても様々な取組を行ってきた。それもこれも結局このビルもその一環ですよ。イーストピアという名前で複合施設を作った。これを一つの理由に中心市街地を元気にしよう。事実それ以降は客足が若干賑やかになったという話も聞いておりました。それらこれらも全部やっぱりぶち壊すような1番の原因はコロナでしょう。ということは、私は冒頭にとらえてそういう発言をしたわけでありますが、参考までに伺いますけれども、南口を作ったというのはあれはいつでしたっけ。覚えてます。

○議長（古舘章秀君） 山崎公共交通担当部長。

○公共交通担当部長（山崎政典君） あれは補助対象の工事費に含めておりますので、平成15年12月のキャトル宮古の開店前の工事で南口を作っております。

○議長（古舘章秀君） 田中尚君。

○20番（田中尚君） なおかつこれは市民の方々がお話をしている中身であります。二つありますよね。最高のロケーションというか、場所なんだ。駅に近くて周辺の住民の皆さんも鉄道なりバスを利用して、文字通り交通の結節点で商売ができる。こんないい場所はないというふうに言われておりました。従ってこれはこれから宮古市がいろんな意味で誘致をしていく際に大きなやっぱり材料に私はなると思うんですけれども、そういう認識でいいんでしょうか。私はそう思っているんですけどもね。ただ一方では、店は言ったら悪いですけども設計図含めて、配置状況も含めてなかなかちょっとなということで、一流のメジャーなお店がここで商売しようというふうになるにはちょっといろんな意味で待てよというふうな、簡単に言うと老朽施設でもあると。そう言ってるわけじゃないですけども、ちょっとこう尻込みをするようなね、やっぱり店舗面積だとか様々な弱点も指摘をされているんですが、それらも含めてこの間の関係者との協議の中では、市のほうはそういう情報は持ち合わせていないということでしょうか。持ってない。

○議長（古舘章秀君） 山崎公共交通担当部長。

○公共交通担当部長（山崎政典君） 先ほど松本議員の質問にも若干関わってきますけれども、昨年キャトル宮古と立体駐車場の間にある旧セキカワさん、これを若竹が取得したわけですが、キャトルと若竹さんのほうから勉強会みたいなものを開きたいというお話がありました。その中で今まで2回ほど開いております。ただ、それは私が市長に相談して、現役の部長が関わる内容にまでは至っていない。従ってキャトルをよく知ってい

私が行政側のオブザーバーも含めて入って2回ほど会議を開きましたが、実際には地権者は1度も来てませんから、まだ全く白紙の状態です。そこでこういう形になってしまったんで、その後どうするかというのは、今後の話になるかとは思いますが、立地適正化とかそういう話もし議員さんの間に多少出ているとすれば、そういう計画をつくるかどうかということは全く白紙の状況にあります。ただ、約20年前、旧宮古サティが閉店したときにあそこの駅前いわゆる廃墟ビルをつくるわけにはいかない。それに対して地元の人たちが立ち上がって、会社をつくって市は側面的支援をして、国と県の補助をいただいて、総額約5億数千万の事業費でしたけれども、ああいう形で立ち上げたということですので、まずこのままにというのはなかなか難しい部分もあるかもしれませんが、これは市も議会の皆さんにも今これからどうすると言えるような状況にはないということですので、あとキャトル側のほうも宮古以外のスーパー系等の方に宮古以南の業者さんですけども、2回ほど2社ほど見ていただいているというのもありますから、それがどうなるかといったところも市のほうとすれば推移を見ないと何とも判断出来ない。今はそういう意味では伊藤産業振興部長が言える範囲の中で、多少私のキャトルに詳しいものとして言えるとするればこのくらいの範囲ということになります。

○議長（古舘章秀君） 落合久三君。

○16番（落合久三君） 今日の全協で先ほど来出ている意見、私も同感であります。私が昔話をしたいわけじゃなくて、私が議員になった年にこのサティから今のキャトルを立ち上げる実行委員会が作られて文房具屋のトミヤの吉田さんが会長になって、花屋の関口さんが副会長でずっとやって今日を迎えたと。そこでとても残念だとか大変な状況だなという思いで今立ちました。この出された営業状況の8月27日金曜日にキャトル宮古から宮ビルスーパー有限会社ミナック閉店の状況を聴取した。つまりこれは一般的な話じゃないんですよ、我々ももう詳しい中身は別にしてもう辞めるそうだっていうのは聞いてましたから。ただ8月27日の時点では職員が直接どこまで先方が話したか、財務状況まで話したのかどうか分かりませんが、いずれ重大な決断をしていると。もう撤退間違えなしというのはつかんだと思うんです。そっから見ると今日で10日経っています。聞きたいのは、さっき部長が9月10日には解雇された従業員の皆さんの今後の雇用の問題等々の説明を行うっていうのは先ほど部長が述べたんですが、宮古市として10日前にそういう自体がかなりの確率で想定されていたわけですから、本来であれば今日の全協では詳細なことは全く今後にするっていうのはいいんですが、基本的にはこういう方向で市としても関係機関と連携とってこういうことをやりたいと思っているっていうのも全く示されないもんだから本当にそれでいいのかなと。部分的には議員だっているような情報を知ってます。宮ビルさんが毎月400万のテナント料を払ってる。年間で4,800万ですよ。これ何年払ってきたって。そういうことも議員は知ってます。ただ、今そういうことを何か言いたいんじゃないかって、そういうふうな実態は当局だつてある程度わかっているわけだと思うので、その辺の基本的な市としての今後かかわり方、そういうものは本当はないのかどうか。なければならないでいいんですが、私はとてもちょっと信じられないですね。私個人で言えば、キャトルの役員をやってる方から決算書も見てます。財務状況もある程度わかります。だけど今この場で言うべきではないと思うので言わないだけで、当局だつてそういうことは基本的なことをわかってるはずだと思います。分かんない。この今後の取組のところはね、先ほどのような提携ではちょっといいのかなと。よくないなと思うので、そこのところはまだそういう大筋の方向もまだ議論がされていないんであればそのとおりでいいんですが、そうであれば、ちゃんと議会としてもそういう状況を正確に関係者から直接間接ではなくて、聞くような場も設けていかなきゃいけないかなとは思いますが、どうですか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 8月27日は我々の事務所のほうに電話がキャトルさんのほうからありまして、ちょっとお話ししたいことがあるということで、私と担当で行ってそのとき初めて本決まりでないんだけどもそういうふうになるかもしれない。早くて5日だとかというようなレベルでした。そして私担当の部長ですから何かあったらということで名刺を置いてきた程度でございまして、今後どうするんですかというキャトルとして宮古市と話をしに行きたいということで、それ決まったらアポ取りとかしますので連絡くださいという中身が8月27日でございます。実際来たのが9月3日ということでございますので、まずその時系列の問題は理解を願いたいと思います。また何回も繰り返しになりますが、我々確かにすごく情報が少ないというふうに思います。その決算状況やら何やら全くございませんで、そこら辺今後、ちゃんと入手をしてどういふような支援ができるのかっていうのは、早急に進める必要があるかなと思います。

○議長（古舘章秀君） 西村昭二君。

○3番（西村昭二君） 今日のこの全協の質問、ここに関わることであれば質問はいいですよ、ということでしたので少しお伺いしたいんですけども、伊藤部長のほうから中身について説明があつて、自分たちが持っている情報これが全てだというお話がありました。ただそのキャトル宮古というのの営業形態というか、もうテナント料ではぼ賄っている事業体、事業所だと思っております。それで宮ビルさんが閉店するというので、今落合議員のほうからも、家賃400万というとても大きな数字を今お聞きしましたけれども、そういったところで1番の要はお客様が抜けてしまうと、そういうところで経営状況がキャトルの経営状況が厳しくなってきたというところでご相談があつたんだと思います。私も先ほど言いましたが、ほぼ家賃収入で賄っている事業体ですから、この情報の中には抜けていくテナントの情報が全くないんですよ。これ本当にこの情報を市では持っていないのでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 現在我々がつかんでいるのは、1番上の100円ショップ、そこが10月いっぱいまで在庫セールを行っているという内容しかつかんでおりません。

○議長（古舘章秀君） 西村昭二君。

○3番（西村昭二君） そうすると状況を、その情報を経て、全協にもこういうふうに議会に対しても説明するような案件でございまして、その店舗の経営者の方と、残ってくれないかとか本当に撤退するのかという具体的な話も全くないと、今現状ではないということでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） そのラエンさんに対して市として残ってくれないかという働きかけはないのかということでしょうか。はい。現在は我々はそこまでの部分は今考えてないところでございます。

○議長（古舘章秀君） 西村昭二君。

○3番（西村昭二君） あの市民のほとんどの方がラエンさんがもう閉店して、抜けるというお話は聞いております。余りにも情報不足なのか隠しているという、ちょっと私はこれが情報が本当にこれしかないのであれば、私は今回全協で説明する内容でもない。私たち議員のほうが、市民のほうがもっと幅広い多分情報を持っていると思うんですよ。逆に私たちが教えて当局側に情報提供をしたいぐらいですね。各議員もそうだと思いますけれども、キャトル関係の方からもしくはあとほかの今コロナ禍の中での営業で、例えば観光業の方からも私電話来ましたけれども、市が本当にキャトルに金を出すのかと。私たちコロナの中でこんなにつらい思いをして商売してるけど、これ私たちにも支援は来ないのかと。そういった不平不満という声も聞こえてきますんで、

キャトル側の人からは私言われたのは、市が何らかの金銭的支援をすると思う、というお話を聞いてます。ただ一方的な話ですので、恐らく違うかと思いますが、そのほかの事業所、例えば末広町であっても中心市街地の拠点施設の中にその末広町も含まれると私は思ってますし、様々なこのコロナの状況の中で困っている事業者もたくさんいるわけですね。そこで市民の皆様もほかの事業所の皆様も、この今回のキャトル宮古に対する市のこれからのどういうふうな支援をしていくのかというのには非常に敏感になっております。ですので、もっと情報収集をしてもう一度説明をしていただきたいと思います。どうでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 情報不足、何回も言うとおりでと思います。積極的に情報収集やってまいりたいと思います。

○議長（古舘章秀君） 橋本久夫君。

○9番（橋本久夫君） 私もキャトルの件に関しては一般質問の通告を出した時点では集団クラスターのことで出したんですが、実は背景はこのことがあったんで、大きくは書けなかったも事実だったんですけども、それで今皆さんの時系列のお話を聞いてる中で、私も8月27日、実は部長のところに行ってね、いろんな話をしたときにちょうど正式に9月5日に閉まるという情報で、先ほど部長が言ったとおりで、何もその話しか実際なかったんで、そこで私も確認をとれて一般質問につなげたことはつなげたんですが、それでさっきの9月3日に今後の情報交換をしたということで、実は次の日の4日にテナント会が開かれてるんですよね。その情報のご存じないですか。このテナント会での発言が恐らく今西村議員が言ったような話の中の情報として恐らくどういうふうに伝わったかわかんないんですが、その支援が市が何らかの形でするんじゃないかっていう情報が、これ定かではないですがテナント会に出席した人が言ってるんで、そのときに紛糾はしなかったけれどもいろいろこう意見のやりとりがあったんですよ。そのときの情報がまだ整理されてないんじゃないかなっていうことなんで、市とすればやはりそこは情報確認ちゃんとしたほうがいいと思います。じゃないと今、西村議員が言ったような意見として市はもう支援するんだみたいなことで何か情報が出たような感じでございました。それはちょっとね、まずいんじゃないかなと私も思ったんで市もさっき伊藤部長が説明したように本当に多分何もまだ支援策なんて決まってないと思うし、私もサティの役員やってたそこまで再開発に組んだ方からも、以前こうやった方からも電話をいただいて、かつてのサティの関係者からね、いろんな情報が来て、建物構造の話とかいろんな情報はたくさん入ってきてるんで、そういう意味ではちゃんときちんと整理した中で、キャトル側とやはり正式な話はしていくべきだと思います。じゃないとテナントに入ってる人もいろいろ不安を抱えて本当にキャトルがどうなんだ、宮ビルだけが抜けた話じゃなく、今後の影響が大きく出るんじゃないかということをややはり皆さんが心配しておりますので、そこはきちんと情報収集してもらえたらなと思っております。

○議長（古舘章秀君） 竹花邦彦君。

○15番（竹花邦彦君） 意見みたくなるかもしれませんが、さっき伊藤部長のほうで現在の情報はこうだというお話がありました。従って私どもは何らかの具体的支援要請があったんだろうというふうに思っておりましたが、今日のキャトルのほうからは、言わばスーパーの誘致、空いてるテナント誘致をする。こういう方針が示されたのみだ。具体的に市にこういった要望なり要請をしたいという話がない。こういうことなわけです。とすれば、私はやっぱり山崎部長がおっしゃったように、やっぱり具体的にキャトル側から市のほうにこういう要請なり、こういう支援が出来ないかということがないとなれば、当分の間、やっぱりキャトル自身がしっ

かりと経営戦略に基づいてスーパーの誘致なり、空いてるテナントをしっかりと誘致をする。こういうところを見守るしかないんだというふうに思うんですね。だからそういった意味からすれば、何ができるんだろうと、何をすべきなんだろう。これは非常に検討するのは自由ですけど、じゃ何をもって検討するのっていう話ですよ。簡単に言えば。金銭的な直接的な支援はこれ出来ないでしょ、はっきり言って市が。やるとしてもそれは側面的な支援等々ですよ。直接的に市がお金を出して、何とかこれで経営やってくださいというわけにいかないわけですから、当然そういった直接的な資金に関しての支援、これは行政としてはすべきではないし、やれるはずはない。ですからそれを変えることを言ったにしても、いずれにしても答弁、さっき西村議員がおっしゃったように、今のキャトルの経営形態は家賃収入、テナント収入で言わば事業運営をしているというのであればそこを埋めるしかないわけです。頑張ってもらえないんです。はっきり言って。それ以外にこういった側面的な支援とかないとなれば、何ができるんだろうと言ったってね、確かに駅前中心市街地、末広町の影響様々考えて大きいものがある。しかし、そこに対し今何ができるんだろうということではね。何もそういった資料もないし、そういったものがない。だから、はっきりと産業建設常任委員会で議長が調査研究とおっしゃいましたが、これ出来ないと思いますよ、私ははっきり言って。議会としてね。だって何を支援を求めているのか、それができるか出来ないかということでキャッチボール出来ないんです。だからそういった意味からすると、私は1日も早くキャトルさんに見つけてもらえない。冷たい言い方ですけど見つけてもらえない。しかし、これが長くなるほどキャトル自体の運営経営は大変厳しくなっていく。そうするとますます今入ってるテナントも撤退をする可能性が出るかもしれない。すすくランドあるいはジョブカフェ等々ももしかすれば、今の賃料上げていただけませんかという話になるかもしれない。こういうことですよ。だから、現実的に今キャトルが何をやるべきなのか。行政が何より今言ったように具体的にはありませんから、非常に検討しづらいと思う。いずれにしろその部分を連絡を密にしながらしていかないとね。これは今の段階で部長がおっしゃったように何をやるべきか、何ができるんだろうかといったって全然その検討材料ないですよ。そうなるんですよ。だから、ちょっと私は今日の段階ではいずれキャトルさんに早くそのテナントを見つけてください。そのために何ができるかというのはわかりますよ。ある意味はね。だからそういうことだろうというふうに思うんです。ですからさっきいろいろテナント会議等で市から金銭的な云々というお話もあったようではありますが、これははっきり言って現実的にね、行政としてそういった直接的な金銭での支援というのはこれはやっぱりはっきり言って難しいわけですから、そういったことは当然、市としてはそういった支援に踏み込まないだろうなというふうに私は思っておりますけどもね。ですからそういったところをまずちょっと産業建設常任委員会として調査研究するという議長のお話ですけど、ちょっとこれは産業建設常任委員会の皆さんの意見を聞いてるわけありませんけども、現時点では非常に難しい課題だろうなと。市としてもそういった何をできるんだろうか、何をすべきかというのはちょっとここはね。はっきり言って推移を見守るしかしかないんじゃないのという私はそういったふうに聞きましたので意見として申し上げておきたい。

○議長（古舘章秀君） 山崎公共交通担当部長。

○公共交通担当部長（山崎政典君） 参考ですけども西村議員への回答も含めて、キャトル自体は、リノベーション補助金を受けるために共同出資会社という形態で会社を立ち上げております。共同出資会社というのは何かというと、入るテナントさんも出資をするということになります。その共同出資会社で当時国と県のリノベーション補助金をいただいて事業を行ったわけです。ですから、西村議員がおっしゃるとおりキャトル自体は持っているものは建物と立体駐車場しかありません。賃料で稼ぐしかないということになります。地権者は

別におります。キャトル関係でいうと地権者は3人。法人も含めてですけども、ということになります。ですからキャトルがどういうふうにならなっていくかというのは、キャトル宮古だけではなく、地権者さんの意向というの今後はいろいろと考えていかざるを得ない部分もあるのではないかと。いうふうに今後のことを考えたときに、いわゆるキャトル宮古を立ち上げを手伝った担当の私とすればそういうふうで考えるを得ない。ですから一義的にはやはり竹花議員がおっしゃるとおり、キャトル宮古が自らその宮ビルに代わるテナントを探したり、フロア構成を検討したり、経費削減、そういったところも含めてまずキャトル宮古がやっていただかないといけないものだというふうにはそれは私も思っております。参考までにですが、キャトル宮古、平成15年オープンですけども、平成15年の1月に会社をつくっております。市はどのような支援をしたかというとその前年の12月に全員協議会を開いて、キャトル宮古がオープンするまでキャトル宮古自体には事業は何もない。かといってテナントを探さないと補助事業も立ちいかない。そこで今の社長の茂内さんと一関から千葉さんという2人の方がこられました。当時の熊坂市長といろいろ部内でも庁内でも検討した結果、オープンまでの間のプランニングとか運営資金ということで900万キャトル宮古に1回限りで市が補助金を出しました。それだけです、キャトルに対する支援というものは。あとは今テナントとしてフロアを借りている賃料は当然テナントの1形態として払ってるわけですので、それもまた今後いろいろ検討するかもしれません。従いまして、キャトルの中でいろんな声があるとは言えますけれども、約20年前でもそういう形の支援しかしていない。まして今やキャトル宮古は地場企業です。当時はマイカル東北の宮古サティが撤退して建物が残ったという状況が今と違いますのでそういう900万の補助があり得たということだと思いますので、合併前の事項でございますので、ちょっと若干昔の部分を含めて説明をさせていただきました。

○議長（古舘章秀君） 西村昭二君。

○3番（西村昭二君） これですべてにしたいと思っておりますけれども、ちょっと今の山崎部長の説明を聞いてですね、ちょっと私もこの場で言っているのかどうかちょっと適切かどうかあれですが、今部長のほうからはキャトル宮古にテナントの募集は努力してもらわなきゃいけないという形での発言がありましたが、宮ビルさんのこれはキャトル側のキャトル側というか、私は両方のキャトルさん、それとそれ以外の方からのお話をよく聞くんですけども、そのリノベーション補助金を受けるに当たって、当然今のキャトルの収入であるとか、様々な計画を立てて、その補助金を申請していると思っております。私そのキャトル関係者のほうから聞いたのは、家賃を決めたのは提案したのは市と商工会議所だという話を関係者から言われました。これがその当時キャトル宮古を発足するための市が支援したというのであれば、私はちょっとこれはとんでもない話じゃないかなと思って聞いて、今日この場で発言するつもりはなかったんですけども、ちょっと山崎部長のキャトルに努力しろというところが納得出来ません。私は明日一般質問もしますけれども、キャトルの空き店舗に企業を誘致するのも市の役割だと思っております。キャトル宮古が万が一、宮ビルさんのように倒産してしまった場合に今入ってらっしゃる店舗の方々の雇用もなくなるわけですよ。そういったところの危機感から私は今回全議員に説明があったんだらうと思ってましたけれども、側面からの支援しかしてないので、キャトル宮古に努力してもらわなきゃいけないというのはちょっと私は納得出来ません。南のほうのスーパーと交渉しているというお話も伺いましたけれども、私の情報が早いのか、市の情報収集が遅いのかわかりませんが、恐らく関連会社2社が見に来たはずですよ。私は南のほうからお断りしたと聞きました。それも今日ではないですよ。そういう情報も本当に入っていないのか。残念というか、私もその今もう50になりますけど、子どものところに玉木屋さんが来て唯一宮古で遊べる場所、買物できる場所というところで、思い入れもある施設であります。これをやはりそのま

ま廃墟にってしまうというのが、宮古市民にとっては、非常に悲しい現実であると思いますので、キャトル宮古さんに努力してもらわなきゃいけないじゃなくて当局側も私たち議会も企業も市民も巻き込んで、皆さんで努力していくという姿勢をぜひ見せていってください。お願いします。

○議長（古館章秀君） 山崎公共交通担当部長。

○公共交通担当部長（山崎政典君） フロア賃料の件だけはちょっと説明させていただきます。確かに当時国庫補助を受けるためにシミュレーションはいたしました。フロア面積を大体どのくらいとれば収支が合うのか、合わないのか。ただし、賃料そのものはキャトル宮古さんとそれぞれのテナントさんとの個別契約です。そのところまで我々が関与したということは、事実には全くございません。まして10数年たった中で新しく入ったところもありますし、どういう形で賃料を設定してるか、そのところが行政とか会議所は関与したという事実は一切ございませんのでそこだけは否定はしております。シミュレーション上、この金額がとれて、会社をつくる前に皆さんにそういったシミュレーションも見せた上で、キャトルに入っていたかどうかという参考資料としてやりましたんで、個別契約については行政も会議所も一切関与はしておりません。ここだけははっきり否定しております。

○議長（古館章秀君） 松本尚美君。

○17番（松本尚美君） 今、山崎公共交通担当部長から西村議員のやりとりのお答えいただきましたけど、私もそのとおりの部長のおっしゃったとおりでと思います。その補助申請するためのリノベーション補助金申請するには当然借入れもありますし、収支ですね、収支シミュレーションを立てて総額として返済財源も含めて維持管理も含めて幾らかかるかってからシミュレーションが必要ですし、それを提出する必要があるんで、それはそれで私も山崎部長の対応をしたというのは、そのとおりでというふうに、証言じゃないですけども、そのとおりでと思います。ただ今後どうするかという部分、今日触れにくいところでもあると思います。情報不足というありますけれども、これはTMO構想中心市街地、当初キャトルですか、キャトルが立地しているエリアは入ってなかったんですね。急遽、リノベーション補助金が有利だということで再生したいということで、急遽TMO構想のエリアの中に取り込んで事業を進めていったという内容だと思うんですけども、そのときに地元の商工業の皆さんがやっぱりこれはキャトルっていいですか、建物、施設を再開しないと、再生しないとやっぱり宮古の中心市街地が廃れていくと。ますます中心市街地は市が疲弊して、そのことが宮古市全体、旧宮古市ですけども、宮古市全体に波及していくということを危惧されたというふうに私も理解します。ただ今後、こういう状態の中で状況の中で今後あのエリアをどうしていくかっていうことは、私は商業ベースで要するに民間ベースで経営云々の部分もこれはそのとおりでと思うんですが、やっぱり中心市街地、駅前ってあのエリアをどうしていくかということには私はやっぱり行政の一つの大きな課題ではないかな。これは行政だけでなく先ほどどなたか言ったかもしれませんが、やっぱり駅前を中心にして駅前賑やかにして、中心市街地はコンパクトシティという表現も使っておりますけれども、これはまるっきし経営の問題と、エリアをどうするかというのやっぱり切離していく必要もあるのではないかなという思いが今してきました。直接そのキャトルさんの経営運営に投資するっていう、投資になるかどうかかわかんですけども、お金を入れるっていうことではなくて、あのエリアをどうしていくかっていうことは、やっぱりこれ喫緊の私は課題になるのではないかなという思いがありますね。伊藤部長に聞くのもあれですが、山崎部長確認なんですけど約19年、20年前にやっぱりこれ中心市街地が活性化したい、賑わいを取戻していきたい。宮古病院もいなくなってさっぱり人が歩かない、いない。サティさん中心に立ち上げてやろうっていう、やっぱり中心市街地をどうするかというの

が一つの大きな政策課題であったかなど。それにやっぱり宮古市も側面であったとは思うんですけども協力していこうという流れだったかどうかというのは確認したいんですがどうでしょう。

○議長（古舘章秀君） 山崎公共交通担当部長。

○公共交通担当部長（山崎政典君） 宮古市では平成13年3月に中心市街地活性化法に基づく基本計画を策定いたしました。そして翌年の1月に会議所がTMO、タウンマネジメントオーガニゼーションになってTMO構想を認定しております。この時点ではまだ宮古サティは営業しておりましたので、事業の中にはこれを含まれておりません。平成15年1月に基本計画もTMO構想も変更して、宮古サティ再活用事業ということで、新たに入れ込んで補助申請をしたという形になっております。あと当時の部分で言いますと、平成14年8月末が宮古サティが閉店ですけども、既にその前から動いております。7月18日には、市と会議所が指導して報道にも公開をして当時の分庁舎で再活用の基本的な考え方みたいな説明会を開きました。そして7月の末には共同出資会社統合設立準備会も開いております。この時点でも誰が出資したいかというのもわからないということで、市と商工会議所が指導して従って先ほど西村議員がおっしゃったとおり、一見私が言った部分は冷たいようには見えたかもしれませんが、やはりキャトルさんも自分で頑張る部分は頑張っていて、なおかつ行政とあるいは会議所と情報交換をしながら、やはりこれは逆に言えば、宮古サティが閉店したときと同じような状況になりかねないっていうのはそのとおりだと思います。当時と違うのはマイカル東北が撤退したのと、地元の企業がどうなるかという、その違いは確かにございますけれども、そういう意味では、行政が一切冷たいままでいるということでは私は、個人的にはキャトル宮古に関わった人間として、決してそういう気持ちではないんですけども、まず今はキャトルさんにもそういう部分では若干頑張ってもらわないと駄目な部分もあるだろうというふうに思っております。当時も今の社長の茂内さん店長でしたけども、私は国庫補助金とかそういう書類のほうはつくれますが、テナントを呼んでくることは行政の人間にはとても出来ない。そこを今の社長の茂内さんは能代サティの店長だったんです。ですから、マイカル東北系の仕入れ先等は十分わかっていらっしゃったので、そういった部分は役割分担でやったというのがございます。ただ今回はどうしてもその補助とかそういうものではなくて、あくまでテナントさんをどうするかということになると、行政側の人間はなかなかそういった部分に関しては手伝いにくいというのも、正直言って今の伊藤部長とか岩間所長の中にはあるとは思いますが、いずれ情報交換を密にしながら市も会議所もやはり一緒になってキャトル宮古と取り組んでいかないとちょっと大変な事態が起きるかなど。当然先ほど言ったとおり、地権者の方も考えていただければいけない事態だというふうに考えておりますので、現時点ではこういった形ですけども、今後も多分必要があれば、産業振興部、産業支援センターのほうで開くと思いますので、そこらの情報をもとにまた様々議論というよりは意見交換でしょうか。していただければなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（古舘章秀君） 田中尚君。

○20番（田中尚君） せっかく資料提供をいただいておりますので、私は確認の意味であえて発言をします。この経過を見ますと、9月3日にキャトル宮古から市へ状況報告と今後の取組について情報交換を行った。この場に市長、副市長、担当職員が対応したという報告を受けております。この間いろんな議論があったわけがありますけども、それを踏まえて今日私どもにいただいた資料は、今後の主な取組、一つ目、株式会社キャトル宮古、つまりこれは事業主でありますあの建物の言わばオーナーが努力する方向として、食品スーパーを誘致活動する。その他の空きフロアへの入居を働きかける。ここは役割分担を私は報告を受けてるって理解なん

です、やりとりを聞いて。そういった意味で確認のために発言してるんですが、これは主に今山崎部長がおっしゃったような形でキャトルさんが努力をする部分、これは食品スーパーを誘致していただく。空きフロアの入居について、当たり前のことをこれは確認したというふうに理解します。問題は市及び関係機関であります。これは現時点では一つやっぱりコロナ対応で使えるものは使う。もう一つは解雇された従業員、こういったものにつきましては、労働法制に基づいて必要な支援措置をする、これも当たり前の話であります。そういった意味からすると、いろいろこう臆測も含めた発言があったわけでありましてけれども、今日の全協に対する市からの報告については、まさしくこのとおりで例えばキャトルのかわりに市が何かを代行するとか、そういうことは決して約束もしてないし、裏的な支援もない。というふうに私は読み取るんですがそういう理解でいいですよ。確認です。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） そのとおりでよろしいです。

○議長（古舘章秀君） 田中尚君。

○20番（田中尚君） その上で問題は議長が冒頭振ったような今後の議会対応であります。私は結論から言いますと非常に大きな問題であります。本来、議会基本条例で言いますと、私どもの議会活動は通年議会という言い方をしておりますけれども、ちょっと自重気味に私言いますけどもね、なに通年議会じゃない、ついで議会だということを言ってるんで、それはさておいて。今後どうするかについては、やはり私は議長の振りは産業建設常任委員会で示したわけであります。これは議会基本条例からいきますと、当たり前のあるべき姿であります。しかしなぜ議員全員協議会やったのか。やっぱり全議員が集まってオール議会として、いろんな情報も集めて、必要な対応を議会としてやっぱり当局との部長おっしゃった意見交換の中で、より正確で適切なものにしていくということを考えると、今後も議長、全員協議会の適切なやっぱりこういう形の場を確保してほしいということでもあります。その間の言わばその事務局的だと言ったら怒られますけれども、産業建設常任委員会さんは所管ですから、言われようが言われまいが天下の一大事だ。我々所管の事業の言わば事案が発生したということで、情報を集めて当たり前でありますよ。その事の情報に基づきしっかりと今日みたいな形で全体で議論するっていう今後の日程をしっかりと確保していただきたいと私は要望申し上げます。よろしくお願ひします。

○議長（古舘章秀君） 西村昭二君。

○3番（西村昭二君） 今、田中議員のお話も聞き、思ったんですけども、今後の取組がもうですね、キャトル側のやること、行政側がやることと決まってるわけですね。そしたら産業建設の所管で何を話し合うんですか。今日は何のためですか。キャトル宮古の経営状況、営業状況について。これだけですか。そしたら産業建設の委員会でも話し合う必要私も全くないと思いますよ。何をベースに話し合うんでしょう。議長どうですか。

○議長（古舘章秀君） 今、西村議員から今の話が出ましたんですが、実は皆さんも多くの議員の皆さんが、キャトルの新聞が出た部分で終わってると思います。そういったことで現状をしっかりと皆さんと共有の認識をもとに今後のことを議会として取り組んでいくということが第1だと思って常任委員長と話して全協という形で説明を求めて受けたところでございます。そういったところで今日それぞれの説明の中で今後の方向性については竹花議員からもそれぞれの議員からもお話があったように今の当局としてはこれからの仕組みづくりはしっかりとやっていくということですけども、キャトルの内容についてこれからしっかりと当局も詰めていかなきゃならないということでございますので、私自身は今後このキャトル、それから中心市街地の在り方、これら

に関して議会と協議が必要な部分については、担当常任委員会でそれぞれ議会、当局と議論をしていただいて必要に応じてこの全協を開いて皆さんにお諮りしていきたいと、こういう考えでありますがいかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（古舘章秀君） 今後そのようにしていきたいと思いますので、しっかりと当局のほうでも対応し議会との連携を密にさせていただいて、議会は議会として調査活動してやっていかざるを得ないと思いますのでそういう方向でしっかりとその情報を提供していただくようお願いしたいと思います。予定を、皆さん以上でよろしいでしょうか。予定していた説明を全て終了いたしましたのでその他に移りますが皆さんから何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（古舘章秀君） ないようですので、これをもって議員全員協議会を閉会します。お疲れさまでした。

午後3時52分 閉会

○

宮古市議会議長 古 舘 章 秀